

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991400035		
法人名	社会福祉法人 平成福祉会		
事業所名	グループホーム ラシック桂台		
所在地	山梨県大月市猿橋町桂台一丁目99番		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和4年 2 月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
聞き取り調査日	令和 4 年 12 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的に買い物、外食・馴染みのある場所、自宅等に外出をする機会を作り地域での暮らしが感じられ、また気分転換に繋げられるように支援しています。(令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛)自分で出来る事については声掛けし意向の確認を行いながら調理・盛り付け・食器洗浄・洗濯物たたみ等、家庭で行われていた家事行為を職員と共に役割や意欲に繋げられるようアプローチしています。ご家族への連絡時、家族宅への訪問時に日頃の状況、体調の変化等をキーパーソンにお話しし面会制限時の中でも日頃の様子や体調の変化、今後のリスク等について共有が出来るように説明を行っています。また日頃の状況が分かり易いようホールやユニット内に写真を掲示したりブログ等を活用して情報の発信を行っています。コロナ禍の状況により面会制限をしている為、オンライン面会が出来る環境を作り希望者への支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【家族と本人が安心できる環境と雰囲気づくりに努めています】職員が感受性を高め、利用者の立場に立って困ったことや不安に思うことの背景を探り推察しケアに反映させています。家族による面会が気軽に出来ない分、ケアプランや重要事項の変更の際は家族宅に伺うなどの早急な対応がとられています。共有空間で安心・安全に過ごせるよう利用者の導線を確保したり、体格差を補える家財等を導入して、利用者にとって心地よく過ごすための環境づくりに努めています。家族は事業所が発信するブログを楽しみにしています。これからも楽しい話題をたくさん提供して下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームラシック桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念「しわあわせを共に」・介護方針「安心・安全・あなたらしく」を意識し入居者の情報共有と対応の振り返り・検討を昼礼、ケア会議、内部研修を通して行い入居者にとっての最善の対応が出来るよう取り組みを行っている	法人の経営理念「しわあわせを共に」・介護方針「安心・安全・あなたらしく」を意識し入居者の情報共有と対応の振り返り・検討を昼礼、ケア会議、内部研修を通して行い入居者にとっての最善の対応が出来るよう取り組みを行っている	法人の理念である「しわあわせを共に」介護方針「安心・安全・あなたらしく」は各ユニットに掲示し、職員間で共有しています。内部研修では理念と介護方針を深堀するために接遇、身体拘束、リスクマネジメント等について研修しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	令和2年2月29日より面会制限を行っており、合わせて地域の訪問者・ボランティア等の受け入れも行っていない状況。書面での運営推進会議時に桂台地区の民生委員にも資料配布し意見・要望書の提出を依頼している為、施設の実情の理解は得られている。	令和2年2月29日より面会制限を行っており、合わせて地域の訪問者・ボランティア等の受け入れも行っていない状況。書面での運営推進会議時に桂台地区の民生委員にも資料配布し意見・要望書の提出を依頼している為、施設の実情の理解は得られている。	自治会には加入されていませんが、事業所の状況について運営推進会議に所属している地域の民生委員が中心になって情報の提供をしています。事業所は地域が管理する公共の施設(エスカレーター)を職員も利用していることから、相応の負担をしています。地域で定期的に開催される例会に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大月市の地域ケアシステム構築のための認知症ワーキングに参加し関係各所にグループホームに対しての理解が得られるようアプローチしている。委託事業としてオレンジカフェを行う事により認知症についての情報発信を行える環境を作っている	大月市の地域ケアシステム構築のための認知症ワーキングに参加し関係各所にグループホームに対しての理解が得られるようアプローチしている。委託事業としてオレンジカフェを行う事により認知症についての情報発信を行える環境を作っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年2月29日より面会制限を行っている為、運営推進会議についても資料にて情報提供を行い意見・要望書の提出を依頼し頂いた意見・要望からサービスの向上に繋げるようにしている	令和2年2月29日より面会制限を行っている為、運営推進会議についても資料にて情報提供を行い意見・要望書の提出を依頼し頂いた意見・要望からサービスの向上に繋げるようにしている	家族の代表は、都合により運営推進会議には参加していませんが、会議の内容については書面に報告しています。会議のメンバーに、医療的情報と往診時の情報共有を目的に往診担当看護師が加わっています。書面開催についてはコロナ禍が落ち着いたところで対応の検討を図っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な訪問・認知症ワーキングへの参加、オレンジカフェ・運営推進会議の開催等により、相互間の情報共有・連携・取り組みを行っている	定期的な訪問・認知症ワーキングへの参加、オレンジカフェ・運営推進会議の開催等により、相互間の情報共有・連携・取り組みを行っている	市に対してはグループホームの実情を知っていただくと共に、適切なアドバイスを頂いています。また、些細な事でも相談に乗っていただける関係性を大切にしています。月に1回、市役所に出向い入居希望者等についての情報交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行っているケア会議内の身体拘束解消委員会にて日頃の介護の振り返り(不適切ケアについて)を行い身体拘束についての検討・意識付けを行っている。内部研修の中で、身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている	定期的に行っているケア会議内の身体拘束解消委員会にて日頃の介護の振り返り(不適切ケアについて)を行い身体拘束についての検討・意識付けを行っている。内部研修の中で、身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている	身体拘束については声掛けが恣意的になっていないか、スピーチロックになっていないか、様々な状況から振り返りを行う中で、職員間での意識付けに尽力しています。半年または一年に一度、運営推進会議において身体拘束の状況について資料の提出をしています。身体拘束に係るマニュアルは法人として整備しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内での内部研修の中で高齢者権利擁護・身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている	施設内での内部研修の中で高齢者権利擁護・身体拘束の研修を行い身体拘束の弊害や内容について説明し意識付けが出来るようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	内部研修の中でも権利擁護の視点について分かりやすく説明し理解が得られるようにしている。また成年後見人制度を利用している入居者の担当の司法書士から、連絡時・訪問時に本人の状況や今後のリスクについて説明を行い、対応について感じた事を伺い活用できる機会を作っている。	内部研修の中でも権利擁護の視点について分かりやすく説明し理解が得られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明時に内容についてのイメージや理解が得られやすいよう実例等を通して説明を行っている。変更があった際には変更内容の通知を郵送し重要事項の同意を頂く際にも変更内容の説明を行い理解が得られるようにしている。	重要事項説明時に内容についてのイメージや理解が得られやすいよう実例等を通して説明を行っている。変更があった際には変更内容の通知を郵送し重要事項の同意を頂く際にも変更内容の説明を行い理解が得られるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームラシック桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対しては、日頃の関わりと年2回入居者アンケートを実施し意見、要望が言える機会を作っている。ご家族に対しては面会・受診付き添い・電話連絡時に気になっている事や不安に思っている事等を言いやすい雰囲気を作りコミュニケーションを多く取るようにしている。入居者・家族共に出た意見については早めの段階で対応し信頼が築けるようにしている	入居者に対しては、日頃の関わりと年2回入居者アンケートを実施し意見、要望が言える機会を作っている。ご家族に対しては面会・受診付き添い・電話連絡時に気になっている事や不安に思っている事等を言いやすい雰囲気を作りコミュニケーションを多く取るようにしている。入居者・家族共に出た意見については早めの段階で対応し信頼が築けるようにしている	利用者からの具体的な内容としては、食事のメニューに関する希望(種類)が出されており、対応されています。家族に対しては面会が制限されていることから、事業所側から積極的に思いや意向を伺う機会を設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている昼の申し送り、ケア会議の中で気付きや改善について意見を言う場があり日頃感じている事等を伺う機会を作っている。また、年2回職員を対象としたアンケートを実施している	定期的に行っている昼の申し送り、ケア会議の中で気付きや改善について意見を言う場があり日頃感じている事等を伺う機会を作っている。また、年2回職員を対象としたアンケートを実施している	ケア会議や日々の気づき、改善のコメントに対して、職員が業務の中で我慢することがないように早めの対応を心掛けています。介護機器、備品の購入についても必要とされる物の導入がなされています。大がかりな機器については法人の判断にゆだねています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、個々の業務の中での気付き等を業務改善に早期の段階で繋げ意欲が持てるように配慮している。年1回取得したい資格、参加したい研修についてのアンケートを行い資格取得・研修参加へのバックアップを行っている。職員を対象としたアンケート等を実施し意見や評価がしやすい環境作りを行っている	職員、個々の業務の中での気付き等を業務改善に早期の段階で繋げ意欲が持てるように配慮している。年1回取得したい資格、参加したい研修についてのアンケートを行い資格取得・研修参加へのバックアップを行っている。職員を対象としたアンケート等を実施し意見や評価がしやすい環境作りを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の意向を把握しながら資格取得の研修参加、専門的な知識の向上等に繋がる施設外研修会への参加の希望をアンケートで行い希望者へのサポートをしている。また全介護職員を対象に年間計画に基づいた内部研修を行い介護技術、知識の向上が出来るよう取り組んでいる	本人の意向を把握しながら資格取得の研修参加、専門的な知識の向上等に繋がる施設外研修会への参加の希望をアンケートで行い希望者へのサポートをしている。また全介護職員を対象に年間計画に基づいた内部研修を行い介護技術、知識の向上が出来るよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加等を通じて職員が他事業所の職員と関わりが持てる機会を作っている。(介護支援専門員更新研修・認知症実践者研修・認知症リーダー研修等)管理者としては、大月市内の認知症ワーキングへの参加を通じて市内の事業所との情報共有、連携等により質の向上を考え向上に繋げる機会を作っている。	外部研修への参加等を通じて職員が他事業所の職員と関わりが持てる機会を作っている。(介護支援専門員更新研修・認知症実践者研修・認知症リーダー研修等)管理者としては、大月市内の認知症ワーキングへの参加を通じて市内の事業所との情報共有、連携等により質の向上を考え向上に繋げる機会を作っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にアセスメントを詳細に行い身体・生活状況等を把握しどのような事に困っているのかを時間を掛け確認している。本人が把握していない困難な部分についてもアセスメント、プラン作成時に検討しユニット職員と情報共有しながら安心して入居が出来る環境作りを行っている	面接時にアセスメントを詳細に行い身体・生活状況等を把握しどのような事に困っているのかを時間を掛け確認している。本人が把握していない困難な部分についてもアセスメント、プラン作成時に検討しユニット職員と情報共有しながら安心して入居が出来る環境作りを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み段階で現状の介護の状況について傾聴し困っている事や不安な事について時間を掛けてお話を聞き、関係作りが出来るようにしている。また記録として相談内容記録票に残し情報の共有が出来るようにしている。	入居申し込み段階で現状の介護の状況について傾聴し困っている事や不安な事について時間を掛けてお話を聞き、関係作りが出来るようにしている。また記録として相談内容記録票に残し情報の共有が出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にお困りごとの状況を詳細に聞き他のサービスで対応可能であれば、他のサービスについて、主に大月市の地域生活資源マップをお渡ししサービス内容について説明し情報提供している。	事前にお困りごとの状況を詳細に聞き他のサービスで対応可能であれば、他のサービスについて、主に大月市の地域生活資源マップをお渡ししサービス内容について説明し情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活歴・既往歴を把握し人柄・性格等を理解した上で、入居者に合った介護が提供できるように考え行動をしている。またユニット内での役割が持てるよう意向の確認を行い調理・家事等への参加を促している。	入居者の生活歴・既往歴を把握し人柄・性格等を理解した上で、入居者に合った介護が提供できるように考え行動をしている。またユニット内での役割が持てるよう意向の確認を行い調理・家事等への参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームラシック桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	令和2年2月29日より面会制限を行っている為、家族に定期的に連絡、自宅への訪問等を行い、日頃の状況等を伝え家族意向の確認を行っている。また本人意向については日頃の関わりの中で意向を把握し本人、家族にそれぞれの意向を説明し相互で共有が出来るようにしている。	令和2年2月30日より面会制限を行っている為、家族に定期的に連絡、自宅への訪問等を行い、日頃の状況等を伝え家族意向の確認を行っている。また本人意向については日頃の関わりの中で意向を把握し本人、家族にそれぞれの意向を説明し相互で共有が出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している。電話などの連絡が来た際には取り次ぎ関わりが維持できるように支援している。	令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している。電話などの連絡が来た際には取り次ぎ関わりが維持できるように支援している。	入居前の居住地に思い入れのある方は、受診の際に馴染みの場所を訪れたりしています。ただコロナ禍の中では人との接触は困難であり、できていない状況です。入居前からの馴染みの店として利用されていた理美容店は、継続を望まれる方以外は訪問の理美容に変更しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声掛けを多く行い話題の提供や関わりが持てるように支援している。また居室で過ごされている入居者の方にも声を掛け孤立しないよう関わり意向確認をしながらリビングへの離床を促し他人入居者との関わりが持てるように支援している	声掛けを多く行い話題の提供や関わりが持てるように支援している。また居室で過ごされている入居者の方にも声を掛け孤立しないよう関わり意向確認をしながらリビングへの離床を促し他人入居者との関わりが持てるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に連絡・訪問してくれるよう促し連絡があった際には、柔軟に相談等の対応をしている。	退居後も気軽に連絡・訪問してくれるよう促し連絡があった際には、柔軟に相談等の対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に状況等を把握し本人に対しての意向確認を行っている。また入居後についても会話の中でニーズを把握し対応が出来る部分については柔軟に対応を行っている。意向確認が困難な場合には日頃の状況等に応じて屋の申し送り・ケア会議等でニーズを把握し対応の検討を行っている。	アセスメント時に状況等を把握し本人に対しての意向確認を行っている。また入居後についても会話の中でニーズを把握し対応が出来る部分については柔軟に対応を行っている。意向確認が困難な場合には日頃の状況等に応じて屋の申し送り・ケア会議等でニーズを把握し対応の検討を行っている。	入居時には生活に対する不安を抱えていた利用者も、生活の慣れと共に不安が解消され、みんなと仲良く暮らしたい、元気でいたいとの思いに変わってきており、不安の解消を図るためのコミュニケーションに努めています。利用者の意向や不安な言動については認知症の背景を探り、家族からの情報を得る中で対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に本人に答えられる範囲内でこれまでの生活状況を聴き把握に努めている。また家族にもこれまでの暮らし等について伺いなるべく正確な生活状況の把握に努めている	アセスメント時に本人に答えられる範囲内でこれまでの生活状況を聴き把握に努めている。また家族にもこれまでの暮らし等について伺いなるべく正確な生活状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に担当者を決め項目に沿った評価を月に1回行っている。また屋の申し送り、ケア会議時に入居者の生活状況についての検討を行い、情報と対応の共有、徹底が出来るようにしている	個別に担当者を決め項目に沿った評価を月に2回行っている。また屋の申し送り、ケア会議時に入居者の生活状況についての検討を行い、情報と対応の共有、徹底が出来るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室毎に担当者を決め項目に沿った評価表の記入とプランへの反映が出来るよう、コメント表を記入してもらっている。本人の意向・意見については、日頃の関わり・アセスメント・モニタリング時に把握し、家族からの意向・意見については、連絡時・訪問時に意向・意見を伺い担当者会議時に情報提供を行い介護計画に反映が出来るようにしている。	居室毎に担当者を決め項目に沿った評価表の記入とプランへの反映が出来るよう、コメント表を記入してもらっている。本人の意向・意見については、日頃の関わり・アセスメント・モニタリング時に把握し、家族からの意向・意見については、連絡時・訪問時に意向・意見を伺い担当者会議時に情報提供を行い介護計画に反映が出来るようにしている。	介護計画は、居室毎の利用者担当職員の評価表を基に、担当者会議において考察し、ケアプランが作成されています。家族による面会が制限されていることから、日々の連絡を密にしてプランに反映させています。入退院時に利用者の状態の変化が見られますが、状態の推移を見守る上でプランの変更はせず、6か月に1度に区切って見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中から状況を把握している、屋の申し送り時、ケア会議時に対応について検討し個別毎の改善提案やケアプランの見直し等にも活かしている	日々の記録の中から状況を把握している、屋の申し送り時、ケア会議時に対応について検討し個別毎の改善提案やケアプランの見直し等にも活かしている		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームラシック桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のニーズについて把握した際には、申し送り時・ケア会議時に共有し対応について検討を行い対応可能な事柄については早期に対応している。入居者・家族にとって安心に繋がる事が出来るようにしている。	入居者のニーズについて把握した際には、申し送り時・ケア会議時に共有し対応について検討を行い対応可能な事柄については早期に対応している。入居者・家族にとって安心に繋がる事が出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している	令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・往診担当医との連携を密に行えるよう状況の変化が有った際には速やかに相談し受診、指示を頂き身体的な負担の悪化に繋がらない対応に配慮している。受診時の状況により、紹介状にて地域の総合病院への受診に繋げている	かかりつけ医・往診担当医との連携を密に行えるよう状況の変化が有った際には速やかに相談し受診、指示を頂き身体的な負担の悪化に繋がらない対応に配慮している。受診時の状況により、紹介状にて地域の総合病院への受診に繋げている	入居の際に今までのかかりつけ医を継続するか、あるいは往診医に変更するかは是非を本人や家族の意向で決めていただいています。往診医に変更する場合は、かかりつけ医からの紹介状をいただき情報の共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に入っている診療所の看護師と密に入居者の状況についての相談を行い状況に応じて早期に受診や指示がもらえるように対応を行っている	訪問診療に入っている診療所の看護師と密に入居者の状況についての相談を行い状況に応じて早期に受診や指示がもらえるように対応を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、日頃の状況について情報提供を行い状態に合った対応が出来るように支援している。また病院内のMSWとも連携し状況の把握が出来るようにしている。定期的に市内・市外病院連携室を訪問し関係性が作れるように対応をしている。	入院時には、日頃の状況について情報提供を行い状態に合った対応が出来るように支援している。また病院内のMSWとも連携し状況の把握が出来るようにしている。定期的に市内・市外病院連携室を訪問し関係性が作れるように対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、その時その場所において変化が見られるものであり、家族間においても考え方が異なるので、本人・家族の意向を尊重しGHとして可能な範囲での対応が出来るように配慮し対応している。	終末期のあり方については、その時その場所において変化が見られるものであり、家族間においても考え方が異なるので、本人・家族の意向を尊重しGHとして可能な範囲での対応が出来るように配慮し対応している。(令和3年3月に看取り実施)	重度化や終末期の対応については、常時医療的なケアが必要な利用者には、事業所として医療的なケアの提供は困難であることから、特別養護老人ホームや看護師常駐の施設を紹介しています。医療的ケアの必要でない利用者については、希望があれば看取りの対応をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍前には、外部研修の救命講習に参加していた	コロナ禍前には、外部研修の救命講習に参加していた		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	概ね月に1回避難訓練を行い避難についての手順確認を行っている。また飲料水・お米等の備蓄を行っている。地域との協力体制については運営推進会議でも話し合いをしておりお互いに協力しあえる関係作りを深めている。また地域の消防団の方と連絡が取れる体制を作り状況に応じて支援を頂く事が出来る関係性を作っている。	概ね月に1回避難訓練を行い避難についての手順確認を行っている。また飲料水・お米等の備蓄を行っている。地域との協力体制については運営推進会議でも話し合いをしておりお互いに協力しあえる関係作りを深めている。また地域の消防団の方と連絡が取れる体制を作り状況に応じて支援を頂く事が出来る関係性を作っている。	事業所はハザードマップの対象エリアではないため、予想される災害としては火災を想定とした訓練を実施しています。避難については消防署との協力体制が整っており、消防署の指示に準じた避難体制ができています。地域の協力体制については、民生委員を通して関係づくりがとられています。	災害時においては地域による人的な協力が必要になるかと思えます。地域の自治会と災害時の協力体制についての話し合いがもたれ、明文化されておくのはいかがでしょうか。検討をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に行っている昼の申し送り時・ケア会議時に対応について検討を行いプライバシーの尊重や対応について振り返り、検討を行っている。	定期的に行っている昼の申し送り時・ケア会議時に対応について検討を行いプライバシーの尊重や対応について振り返り、検討を行っている。	共同生活をしている上でのプライバシーとして、居室の出入りの際のノックや声掛け、トイレの扉が開いた状態にならないよう配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け・日常会話の中で意思決定や伝達が出来やすい雰囲気・言葉掛けに配慮している。状況の理解が困難な入居者の方についても、入居者の方の意思の尊重が出来るよう関わり方の工夫も行っている(選択式の声掛け等)	声掛け・日常会話の中で意思決定や伝達が出来やすい雰囲気・言葉掛けに配慮している。状況の理解が困難な入居者の方についても、入居者の方の意思の尊重が出来るよう関わり方の工夫も行っている(選択式の声掛け・ホワイトボード活用等)		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームラシック桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	声掛け・日常会話の中で意向や想いを把握し入居者の意向に沿った対応に配慮している。強すぎるディマンドについては状況を説明しながら本人が状況を受け入れやすい説明を行っている。また日々の中に役割が出来るよう支援を行っている。	声掛け・日常会話の中で意向や想いを把握し入居者の意向に沿った対応に配慮している。強すぎるディマンドについては状況を説明しながら本人が状況を受け入れやすい説明を行っている。また日々の中に役割が出来るよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服、オシャレをする事に対する意識が持てるよう、身だしなみについての声掛けを行っている。また希望がある際には意向に合った服の購入の代行を行っている。屋の申し送り・ケア会議時に、衣服購入についての情報共有を行っている。また家族に対しても相談を行い好みの洋服を持ってきてもらったりしている	季節に合った衣服、オシャレをする事に対する意識が持てるよう、身だしなみについての声掛けを行っている。また希望がある際には意向に合った服の購入の代行を行っている。屋の申し送り・ケア会議時に、衣服購入についての情報共有を行っている。また家族に対しても相談を行い好みの洋服を持ってきてもらったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け等、に対して意向確認を行いながら参加を促し役割を持ってたり食事に対しての意欲が持てるように支援している。意向がある嗜好品については、個別に購入を行っている。	調理・盛り付け・食器洗浄等、に対して意向確認を行いながら参加を促し役割を持ってたり食事に対しての意欲が持てるように支援している。意向がある嗜好品については、個別に購入を行っている。	2つのユニットはそれぞれの食材を納める業者が複数あることで献立に独自性があります。献立に沿って職員が中心になって調理されており、利用者から希望があった際は、血洗いや盛り付けの場を担っていただいています。嗜好品として梅干しやふりかけ、ヨーグルトを個別で用意されている方もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェック表に記入し情報共有が出来るようにしている。業者から食材を入れている為、必要栄養量に沿った献立により栄養バランスが取れるようにしている。嗜好品等の提供、食事形態の変更・代替え食により安定した摂取量が摂れるよう支援を行っている	毎食の食事・水分摂取量のチェック、嗜好品の購入、食材納入業者の献立活用等を行っている。一人ひとりに合わせた食事形態の変更、代替え食提供を行っている。栄養量が低い方については、医師と連携し補助食品の提供に繋げている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔ケアを行っている。また訪問歯科利用者については、歯科医師・歯科衛生士による口腔ケア対応・指導もある為、状況について相談し、状態に合った対応が出来るようにしている。口腔内の不具合が見られる方については、訪問歯科に繋げられるように意向確認を行い支援している。	定期的に口腔ケアを行っている。また訪問歯科利用者については、歯科医師・歯科衛生士による口腔ケア対応・指導もある為、状況について相談し、状態に合った対応が出来るようにしている。口腔内の不具合が見られる方については、訪問歯科に繋げられるように意向確認を行い支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄リズムを把握しながら適時にトイレ誘導、介助が出来るようにしている。また排泄状況によりオムツ・パッド・紙パンツの変更、トイレ・Pトイレでの対応等を屋の申し送り、ケア会議時に検討している。また、移乗が可能な限りトイレでの排泄支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄リズムを把握しながら適時にトイレ誘導、介助が出来るようにしている。また排泄状況によりオムツ・パッド・紙パンツの変更、トイレ・Pトイレでの対応等を屋の申し送り、ケア会議時に検討している。また、移乗が可能な限りトイレでの排泄支援を行っている	各居室にトイレは設置されていないため共用のトイレを使用しています。トイレの拒否の見られる方については時間をずらして声掛けしています。夜間はトイレ誘導の必要な方、パッド交換の必要な方等、状況に応じた支援が行われています。また、居室にポータブルトイレを持ち込んでいる方には、安全性からセンサーマットを導入して対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを把握し水分摂取の促しや腸の運動を高める為にも活動が必要な事を声掛けし促している。また状況(便が硬い等)に応じては往診・受診時に主治医に相談し緩下剤等の内服処方・調整を行ってもらい円滑な排便に繋げられるようにしている	排泄リズムを把握し水分摂取の促しや腸の運動を高める為にも活動が必要な事を声掛けし促している。また状況(便が硬い等)に応じては往診・受診時に主治医に相談し緩下剤等の内服処方・調整を行ってもらい円滑な排便に繋げられるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めずすまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況や本人の意向を踏まえて入浴日・順番をずらす等の対応を行っている。	身体状況や本人の意向を踏まえて入浴日・順番をずらす等の対応を行っている。	入浴は個室で支援しています。入浴日は決まっていますが身体状況や拒否がみられた時は臨機応変に対応されています。介助については、女性で男性の介助を拒否される方がいるため本人の意向を確認しながら、同性介助に固執せずに支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に応じて寛げるようにソファ等への座り替え状況に応じて、ベッドで休む時間を作るなど対応を行っている。夜間の安眠に繋げられるように日中の活動への参加を勧めている。	身体状況に応じて寛げるようにソファ等への座り替え状況に応じて、ベッドで休む時間を作るなど対応を行っている。夜間の安眠に繋げられるように日中の活動への参加を勧めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームラシック桂台

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服が処方された際には、申し送りで説明を行い受診の状況・お薬説明書をその都度差し替え内服についての理解が出来るようにしている。	内服が処方された際には、申し送りで説明を行い受診の状況・お薬説明書をその都度差し替え内服についての理解が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者・家族のニーズに応じた支援、趣味活動、意向を確認し調理や洗濯物たたみ等役割が持てる機会を作っている。	入居者・家族のニーズに応じた支援、趣味活動、意向を確認し調理や洗濯物たたみ等役割が持てる機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している。	令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している	コロナ禍になってからは制限、自粛しています。特に家族に対しても面会の制限に協力していただいていることから、外出については慎重な対応をしています。受診の際に少し時間をとって、ドライブをする等安全な外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している	令和2年2月29日面会制限以降、外出については、自粛している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の希望がある場合には、便箋・ハガキ・切手等の購入の支援、手紙記入後の投函、郵送の支援を行っている。 電話については希望が有った際に利用が出来るように対応を行っている(事務所等)	手紙の希望がある場合には、便箋・ハガキ・切手等の購入の支援、手紙記入後の投函、郵送の支援を行っている。 電話については希望が有った際に利用が出来るように対応を行っている(事務所等)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームらしき日常生活の場として安心して寛げる環境・雰囲気作りを行っている	グループホームらしき日常生活の場として安心して寛げる環境・雰囲気作りを行っている	利用者の中には車いすや歩行器を使われる方がいるため、テーブルやソファの配置、整理整頓を施す中で導線の確保に留意されています。共有のテーブルでは身長の違いから使いづらさが生じないよう、椅子とテーブルが一体となった、長さの調整できる家具を導入してみんなと過ごせる工夫がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの活用(1~3人掛け・複数人掛け)を行い思い思いに過ごせる環境作りに着目し配置等の工夫・検討を行っている	ソファの活用(1~3人掛け・複数人掛け)を行い思い思いに過ごせる環境作りに着目し配置等の工夫・検討を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの使用の制限をしていない為、家族・本人の意向に沿った物を持ち込めるように対応を行っている(仏壇・イス・以前から使用していた寝具等)	持ち込みの使用の制限をしていない為、家族・本人の意向に沿った物を持ち込めるように対応を行っている	入居の際はベッド周りの物で普段使い慣れたものは持ち込んでいただいています。ただ、火気に関わるものや危険が予想される家具については遠慮していただいています。居室でテレビを見たり、仲の良い方と話をしたりと、その人なりの過ごし方をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能の活用、身体状況の変化に合った物品の導入を行っている。また屋の申し送り・ケア会議等で対応についての検討・情報共有を行い日常生活行為の維持・拡大、日常の中で役割を持つ事が出来るよう検討・実施・評価を行っている。	残存機能の活用、身体状況の変化に合った物品の導入を行っている。また屋の申し送り・ケア会議等で対応についての検討・情報共有を行い日常生活行為の維持・拡大、日常の中で役割を持つ事が出来るよう検討・実施・評価を行っている。		